

〔大江俊在記〕享保二年六月九日、天授庵へ參、將戲之輩五六人來、終日樂、亥刻計歸。

〔雅筵醉狂集六〕鴨の祐之と將、基さしけるに、銀の露を賭にして、吾町○正親九番勝ければ、祐之、

まら玉の露を懸たる盤のうへ君はお手から我はさんぐと讀ける返し、

みちぬればかくるならひの露の玉とをに一つはひろひ殘さむ

〔浚明院殿御實紀附錄三〕御晩年○德川にいたりて、閑暇の御遊戯には、常に象棋をなされけり、そ

の業の者にては、伊藤宗印、宗鑑、大橋印壽をめてして、對手とせらる、御穎敏にまし、けるゆるは

どなく、奥儀をきはめつくし玉ふ、後には詰物といふ書をさへあらはし玉へり、詰物といへるは、

老成堪能にいたらざれば、著しがたきをわづか、二年の間にえらみ玉ひしかば、その職の者ど

も、おそれ奉れりとぞ、その書なりて、名をば成島忠八郎和鼎に命せられしかば、象棋致格とし

て奉り、今も御文庫に現存せり、

將基所

〔寶永三年武鑑〕御將基所

麻布六本木 伊藤宗看 増山殿下屋敷 大橋宗桂 上同斷 大橋宗興

〔慶應三年武鑑〕御將基所

二十石十人フチ 伊藤宗印 二十石十人フチ 大橋宗桂 十五人フチ 大橋宗珉
八丁ほりヤリヤチ 大橋宗金 下谷三枚ばし 宗桂弟子 天野宗歩

父宗桂 宗看 和田印哲 弟 宗桂 弟 天野宗歩

〔溫知柳營秘鑑三〕京都連歌師、基打將、基指役者、町人、知行御扶持方、御切米被下置候者○中

米貳拾石外五人扶持 宗看 米貳拾石 宗養

〔將基雜編〕將基家三家系

宗桂家

宗桂 前名宗慶、九段、慶長年中被召出、寬永十一死、